

2015.03.30-2

37会、白水(しらみず)鉱泉のミズバショウ、カタクリ



ミズバショウ(水芭蕉) サトイモ科

12:58 白水(しらみず)鉱泉

湿地に自生し発芽直後の葉間中央から純白の仏炎苞(ぶつえんほう)と呼ばれる苞を開く。
これが花に見えるが仏炎苞は葉の変形したものである。



ミズバショウ(水芭蕉) サトイモ科





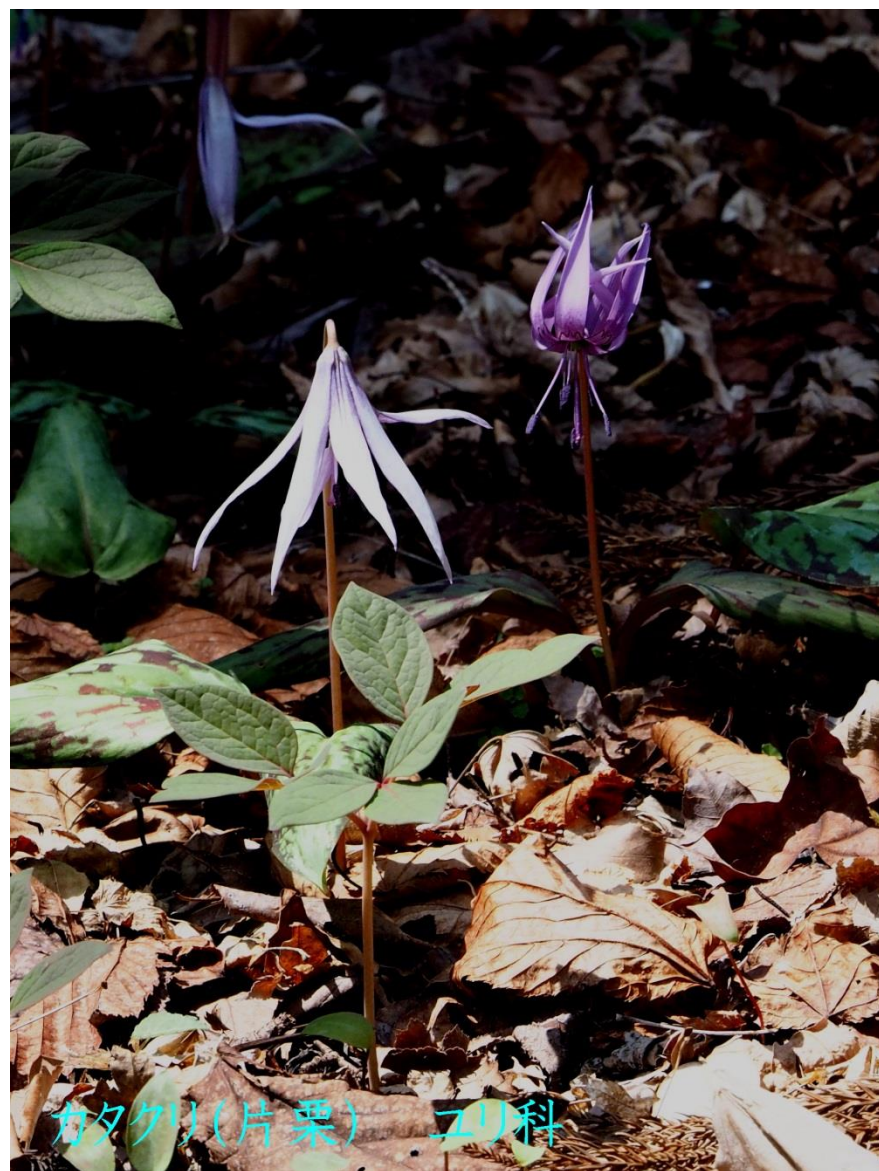


ミズバショウの前で





かつてはこの鱗茎から抽出したデンプンを片栗粉として調理に用いていた。
精製量がごくわずかであるため、近年は片栗粉にはジャガイモやサツマイモ
から抽出したデンプン粉が用いられている。

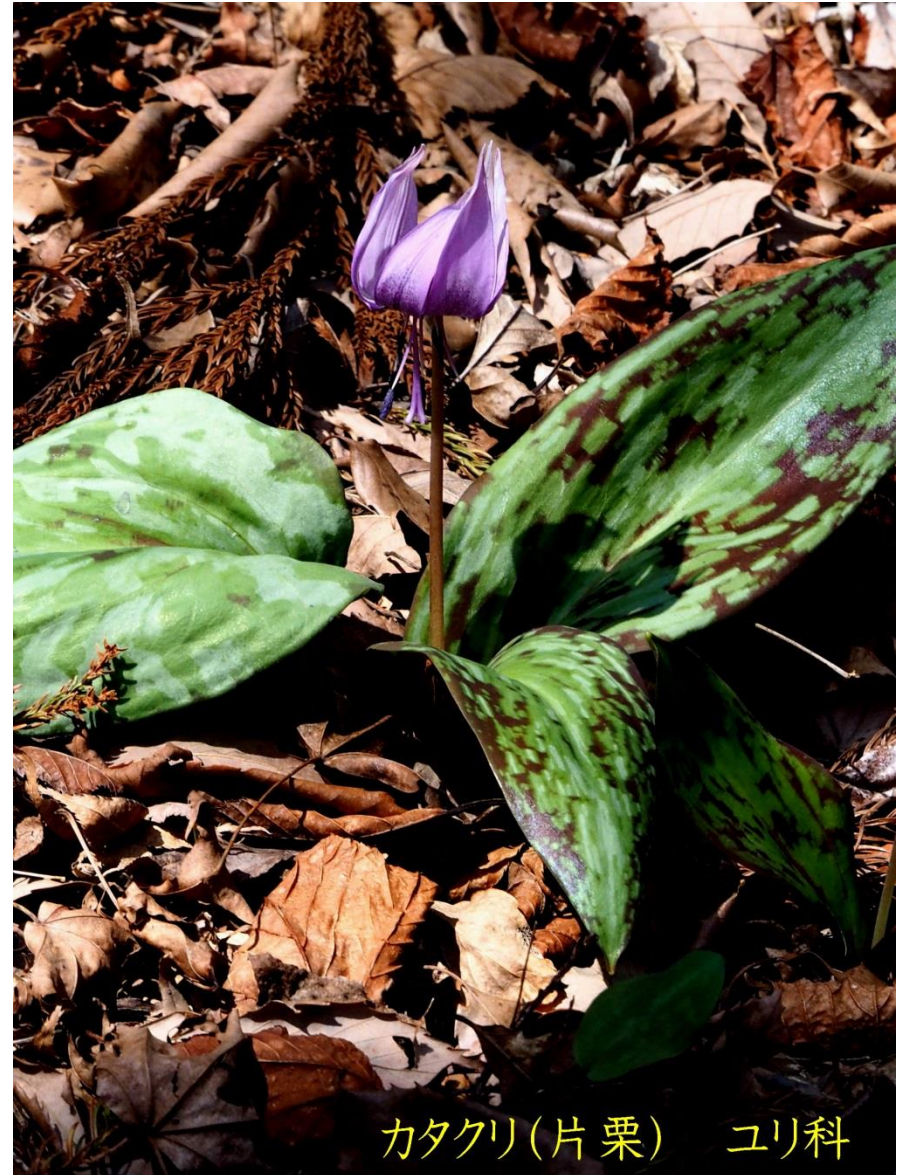




早春に地上部に展開し、その後葉や茎は枯れてしまう。

地上に姿を現す期間は4-5週間程度で、群落での開花期間は2週間程と短い。

このため、ニリンソウなど同様の植物とともに「スプリング・エフェメラル」(春の妖精)と呼ばれている。



カタクリ(片栗) ユリ科



エゾノリュウキンカ（蝦夷の立金花） キンポウゲ科



ツクシショウジョウバカマ(筑紫猩々袴) ユリ科



ツクシショウジョウバカマ(筑紫猩々袴) ユリ科

